

参加報告書

所 属 社会人
氏 名 池田 隼人

<大会名> 平成 30 年度 第 71 回 全国高等学校バスケットボール選手権大会
<期 日> 平成 30 年 12 月 24 日 (月) ～ 平成 30 年 12 月 25 日 (火)
<会 場> 武蔵野の森総合スポーツプラザ
<参加者> 全国の S 級、A 級
<講 師> 参加 S 級の皆様

<報告 1 > ・ゲーム 12 月 24 日 (月) PM17:20～
「近畿大学附属 - 前橋育英」
CC:針生 淳男
U1:市川 雄介

クルー 3 人共が自分のプライマリーをしっかりと判定していたので良かった。
ローテーションのタイミングとしては、クイックローテーションを上手く
活用し早いボールサイド 2 を作る意識が今後の課題である。
自己反省としては、セカンダリーで判定する場面での笛のタイミングが
早すぎる為、絵が完成してのレイトコールの意識が必要だと感じた。
オールコート DF 時の C の位置取りで、フロントコートへの移動が少し早い
時もあるので、しっかり対応できるポジショニングが必要である。

<報告 2 > ・ゲーム 12 月 25 日 (火) PM14:00～
「天理 - 実践学園」
CC:平出 剛
U1:中島 弘幸

両チーム共に、とてもフィジカルが強く激しいコンタクトの多い試合であり、
その中でも RSBQ が崩れたものを確実に判定していき、クルー間の基準も同じ
であったのがとても良かった。
コンタクトに対して知っているのと知らないのでは大きく違い、クルー間での
情報共有の積み重ねがゲーム運営する上でとても重要だと改めて実感した。
細かいクルー間でのコミュニケーションで防げるミスも実感でき、
コミュニケーションの取り方の工夫も必要だと改めて感じる事ができた。
自己反省としては、L ローテーション中に、スキャンザペイントしているが、

新しいマッチアップに目が当たっていない事が多く、どこをスキャンしてスイッチサイドをしていくのが今後の課題である。
Lしかわからないプレーもあるので、全てにおいて目的をしっかりとったローテーションにしていきたい。

<所 感> 今回初めてウインターカップへ参加することができまして、会場には独特な雰囲気がありとても緊張しました。
参加審判員は全て上級の方々に、色々な方のレフリングを見る事ができ全てにおいて自分にとってプラスになる事ばかりでした。
ミーティングでは参加されているS級の方が各試合、主任として入ってくださりとても身になるお話ばかりでした。
全国各地から審判員が参加されていることもあり、交流もでき沢山の情報共有する事ができ刺激を受けることができました。
この度参加する上で、大会に関わったすべての関係者皆様に深く感謝申し上げ、私の報告とさせていただきます。本当に有難うございました。

以上、報告致します。

なお、この報告書が、審判委員会ホームページ等に掲載されることを了承します。